

げんでん 福井 ふれあい

2008 AUTUMN 第32号

ふくい県民総合文化祭

戦国大名「朝倉氏の歴史と文化(二)」

ふるさと福井 人物シリーズ 「橋本左内(中)」



財団シンボルマーク

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的としています。本誌はこの主旨に従い県民のみなさんとの絆を大切にしたい広報誌を目指します。

CONTENTS — 32

- 2008 ふくい県民総合文化祭 2
- 福井県高等学校総合文化祭 開催 5
- 戦国大名「朝倉氏の歴史と文化（二）」 6
- ふるさと福井人物シリーズ
「橋本左内（中）」 8
- ふくいの伝統行事シリーズ
「赤崎獅子舞」 10
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー /26 11
- 福井の文学碑
「俳人・小説家 高浜虚子」 12
- げんでんふれあいスペシャル 2008 13
- 第12回福祉演芸会巡回開催 13
- 情報ファイル 14

FRONT COVER

国選択

無形民俗文化財

「三宅六斎念仏」

（若狭町）



八月十五日（お盆）に、若狭町三宅の久永寺本堂において、国選択無形民俗文化財で先祖を供養する念仏行事「六斎念仏」が上演奉納されました。
「六斎念仏」は、大人の組と子供の組があります。子供の組は、六人一組となり、衣装は浴衣着に鉢巻をしめ、尻からげの姿です。子供達は、手に小太鼓とバチを持ち、腰に鈴りふさのついたバイ（棒）をさし、仏前に向かって六人で輪をつくり、保存会の方々の音頭で鈴の拍子に合わせてリズムカルに踊りました。曲目は六曲ありますが、この日は、「獅子」「千鳥」「今はい」「和讃」の四曲を奉納しました。

2008

ふくい県民総合文化祭

ふれあいフェスティバル各地で開催

三千人のコンサート

ふくい県民総合文化祭（当財団協賛）は、平成十七年に本県で開催された「第二十回国民文化祭・ふくい2005」で結集された成果を飛躍発展させ、更に県民文化の振興につなげようと平成十八年度から「ふれあいフェスティバル」として継承し開催されています。

福井県吹奏楽連盟創立五十周年を記念して「三千人のコンサート」が八月二十四日、サンドーム福井で開催されました。

今年度は第三回となり、大人から子供までが親しむことができる文化の祭典として、八月十日から三月十五日までの間に、分野別に三十六のフェスティバルが県内各地において繰り広げられています。

これまでに開催されたフェスティバルの一部をご紹介します。

加盟する一〇五団体の三千四百人の団員が総結集して壮大な音と感動を共有しようと二年前から計画を進めてきたものです。福井、坂井、丹南、奥越、嶺南の五地区と大学、一般の六つの合同バンドが次々と日頃練習に励んだ曲目を演奏しました。

この後、出演者全員がサンドームの一階から三階席まで四層に並び会場の



大感動の「3400人による大合奏」

太鼓ふれあいフェスティバル

約半分を埋める大吹奏楽団となりました。曲は、「吹奏楽のためのプレリュード」と「Shake A Tail Feather」の二曲を演奏。指揮者がステップを踏み、スイングしながらのパフォーマンスで盛り上げ、約五千人の観客は、総立ちでリズムに合わせて手拍子を打ち、演奏者と観客合わせて八千四百人が一体となって感動と迫力ある旋律に包まれていました。

福井県太鼓連盟主催で太鼓ふれあいフェスティバルが九月二十三日、越前市文化センターで盛大に開催されました。「太鼓魂」と銘づいて県内の十六団体と特別出演の石川県から九谷太鼓若獅子組、富山県の越中井波八乙女風神太鼓が競演しました。

まず、六十人の子供演奏者による福井の太鼓「響」でオープニング。勇壮

で力強いパチさばきと体に響きとリズムが伝わる應の合った演奏を披露しました。

前半は、「越前龍太太鼓」や「ちびっこ明神太鼓」など子供のハチチームが、後半は、「ハツ杉権現太鼓」や「名田



60人の子供たちによる大演奏でオープニング

庄太鼓」などの大人のハチチームがそれぞれ日々修練、研鑽した技を次々と繰り広げました。会場のお客さんは、和太鼓の迫力ある演技と荘厳な響きを心ゆくまで楽しんでいました。

第十八回 市町文協選抜芸能祭

第十八回福井県市町文協選抜芸能祭が九月二十八日、大野市文化会館で開催されました。

ふくい県民文化祭の一環として毎年持ち回りで開かれ、十七の市町文協を代表する芸能部門の団体が得意の芸能を発表するものです。

「かつやま童謡の会」の合唱で幕開け。合奏、合唱、太鼓、古典舞踊、吟舞、

民謡、ジャズダンス、大正琴演奏など多彩な演目を総勢約三百人の出演者が次々と熱演しました。

ファイナーを飾った地元大野市文化協会は、「名水の里

に豊かな文化」をテーマに、混声合唱団「清ら」の「こんにちば大きな木

踊り、吟舞、事曲、舞踊を披露し、観客から盛んな拍手が送られていました。

第三回 えちぜん マリンバコンサート

国内一流のマリンバ奏者による第三回マリンバコンサートが十月五日、越前町朝日多目的ホールで開催されました。

地元越前町の愛好家による演奏に続きメイコンソー



美しい音色を奏でるマリンバ演奏



練習の成果を発揮する合唱団

中の平岡愛子さんと山崎智里さんによる「セニョール・マウス」他三曲が演奏され、また、全国で多彩な演奏活動を行っている通崎睦美さんは、作詞、作曲家の港大壽さんのピアノ、パーカッションに合わせ、バツハの「無伴奏チェロ組曲第三番より（フーレ）」他八曲を演奏し情緒あふれる音色を会場いっぱいに響かせました。

この日は、越前焼で作った音板を用いたマリンバで山崎さんがスコットランド民謡「アニーローリー」と「童謡メドレー」を奏でました。

一流奏者の素晴らしい演奏とマリンバの心地よい音色に約五百五十人の観客は、聴き入っていました。

オーケストラの祭典

福井県オーケストラ連盟主催の県内四楽団による「オーケストラの祭典」が十月五日、県立音楽堂で開催されました。

各楽団の相互交流や技術向上と音楽の普及を目的に開いているもので今回は二回目となりました。

「福井ジュニア弦楽アンサンブル」のモーツァルトの「アイネクライネナハトムジーク」で始まり、「福井大学フィルハーモニー管弦楽団」は、ベートベンの「交響曲第五番（運命）」より第一楽章を、「福井大学医学部管弦楽団」は、「オペラの怪人メドレー」を、「福井交響楽団」は、ムソルグスキーの組曲「展覧会の絵」から「鶏の足の上の小屋」などを演奏。ファイナーは、各楽団から集った百三十人による「合同フェスティバルオーケストラ」に

よってベートーベンの「交響曲第七番より第一楽章」とホルストの「組曲（惑星）より（木星）」を演奏し、重厚なハーモニーがホールを包み、約五百人のお客さんから盛んな拍手が送られていました。



130人の大編成で演奏する「オーケストラの祭典」

第二十八回 市町文協選抜美術展

第二十八回福井県市町文協選抜美術展が十月十八日から二十日までの三日間、美浜町総合体育館で開催されました。

美術の修練と努力の結晶を発表し、また美術愛好家の交流の場として各市町文協が持ち回りで毎年開かれています。十七市町の文協から選ばれた絵画、写真、工芸作品など三百五十点が一同に展示されました。絵画は、風景や人物を描いた



各文協から選抜された美術、工芸品の秀作

日本画など百二点、書道は、かな、漢詩など七十八点、写真は、自然、風景など五十一点、工芸部門では、彫刻、陶芸品、掛軸、押し花など百十九点で多彩な力作を展示した総合美術展です。鑑賞に訪れたお客さんは、各地域の美術活動で技を磨き上げた人達の感性豊かな作品を熱心に見入り文化芸術の秋を満喫していました。

源氏物語千年紀 「源氏物語の祭典」

「第二十一回源氏物語アカデミー」が十月二十四日から二十八日まで越前市で開催されました。

二日目の十月二十五日、武生パレスホテルで、タレントの浜村淳さんを招き特別講演が行われました。

浜村さんは、「源氏物語―母恋の旅」と題してユーモアたっぷりにわかりやすく解説。自ら出版した現代語訳本を紹介し、登場人物や王朝文化を情豊かに、「原作は世界に誇るすばらしい文学で、千年前の作品であるが、現代



「源氏物語」の名場面を解説する浜村淳さん

にもあてはまる話が多くある」と話し、会場に詰めかけた約三百五十人の文学ファンらは、千年紀のムードを満喫していました。

ふくい子ども文化祭 小中、高生四〇〇人が熱演

ウインドオーケストラと子どもたちのフェスティバルが十月二十五日、県立音楽堂で開催されました。

午前の部は、小学校や文化団体の子供達による太鼓、邦楽、洋舞、吟剣詩舞など十グループが演じました。

午後の部は、県内南北地域の高校十校で構成する「南北合同合唱団」が福井県民歌をアカペラ合唱してオープニング。主催者あいさつに続いて初壇佳子さんのパイプオルガンと山崎聖里さんのマリリンバで

「サウンド・オフ、ミュージックメドレー」など四曲を演奏しました。高校生のステージ発表では、福井農林高校郷土芸能部が太鼓「悠久の大地」、「宣候」を、福井合同合唱団による「ミュージカルメドレー」、敦賀高校吹奏楽部のマーチング、金津高校吹奏楽部の「星は、また昇る」などをハツラツと高校生らしく素晴らしい演奏を披露

していました。メインの大阪市音楽団によるコンサートは、「アルカデア」、「愛のあいさつ」など七曲を演奏し、ファイナルは、同楽団の演奏をバックに、出演した児童、生徒約四百人により、「花の上のボニョ」、「世界に一つだけの花」を合同で合唱し、最高潮に盛り上がり

2008 ふくい県民総合文化祭 ふれあいフェスティバル参加事業一覧

和紙文化フェスティバル	8月10日(日)～11月30日(日)
若狭プラスフェスタ2008	8月21日(木)
朝倉文化ふれあいフェスティバル	
第38回越前朝倉朝日まつり・越前朝日万灯夜	8月23日(土)～24日(日)
福井県吹奏楽連盟50周年記念事業	
三千人の吹奏楽演奏会	8月24日(日)
福井県音楽コンクール創立60周年記念	
第60回福井県音楽コンクール	11月16日(日)
武生国際音楽祭2008	9月3日(水)～10日(水)
太鼓ふれあいフェスティバル	9月23日(火)
福井県川町大会	9月28日(日)
第18回福井県市町文協選抜芸能祭	9月28日(日)
能楽の祭典	10月1日(水)～11月3日(月)
華のフェスティバル2008	10月3日(金)～6日(月)
福井県総合短歌大会	10月4日(土)
第3回えちぜんマリリンバコンサート	10月5日(日)
オーケストラの祭典	10月5日(日)
第59回福井県総合美術展	10月10日(金)～19日(日)
第28回福井県市町文協選抜美術展	10月18日(土)～20日(月)
第11回たちまち近松まつり・立待月	10月18日(土)～26日(日)
茶道ふれあいフェスティバル	10月19日(日)
源氏物語千年紀記念事業「源氏物語の祭典」	
第21回源氏物語アカデミー	10月24日(金)～26日(日)
ふくい子ども文化祭	10月25日(土)
能楽の祭典 第29回福井県各道合同能楽大会	11月9日(日)
生活文化体験フェスティバル	11月9日(日)～10日(月)
第3回若狭ふれあいフェスティバル	11月9日(日)
福井県俳句作家協会創立50周年記念総合俳句大会	11月16日(日)
08ふくい詩祭	11月16日(日)
福井県文学コンクール	11月18日(火)
宇野重吉演劇祭	11月28日(金)～12月1日(月)
恐竜文化フェスティバル「山で生まれる」	11月29日(土)
吟詠剣詩舞の祭典	11月30日(日)
第3回福井県合唱ふれあいフェスティバル	2月15日(日)
マーチングバンド・パトントワリングふれあいフェスティバル	
ビートセッション2009	2月22日(日)
大正琴の祭典	2月22日(日)
第3回民謡・民舞・民謡ふれあいフェスティバル	3月1日(日)
第18回福井県人形劇フェスティバル	3月7日(土)
美浜を詠う短歌コンクール	3月7日(土)
IT文化フェスティバル	3月14日(土)
第2回ふれあい日本舞踊フェスティバル	3月15日(日)



南北合同合唱団(高校生)による「ミュージカルメドレー」

を合同で合唱し、最高潮に盛り上がり

客席を沸かせていました。2008ふくい県民総合文化祭は、左表のとおり実施されています。財団では、分野別フェスティバルに参加する団体の技能向上のための事前研修等に支援するために助成制度を設けており、平成二十年度は八団体に助成しました。



華麗に舞う「ラ・バヤデル」(前田美智子バレエ教室)

福井県高等学校総合文化祭 開催

若い感性で文化・芸術の花開く

第19回福井県高等学校総合文化祭(出財団協賛)が「魂爽と奏でよ文化の響き」をテーマとして、高校演劇祭の開催を初めに十五部門にわたり、日頃の活動の成果を発表する祭典が平成二十一年二月十八日までの間に行われます。

これまでに開催された「高校演劇祭」、「美術・工芸、書道、写真展」、「定時制通信制連合文化祭」をご紹介します。

高校演劇祭

高校演劇祭が九月十九日から二十二日まで、坂井市のハートピア春江で開催され十八校が熱演を繰り広げました。

初日は、福井商業高校、足羽高校、金津高校、仁愛女子高校の四校が出演しました。

福井商業高校は、演劇部が脚本、構成した創作劇「I a view」



はつらつと演技する南山高校の演劇

を演じました。「I a view」は、

ハワイの言葉で「幸せ」を意味し、学校をサボろうとする友人を思いとどまらせようとする女子高生、不治の病気で元気のない女子高生やバリバリ働く女性社員などがそれぞれ感じるさまざまな「幸せ」を舞台いっぱい表現しました。出演の高校生は、若い感性と迫力のある演技を披露し、会場から大きな拍手が送られていました。

美術・工芸、書道、写真展 特別支援学校作品展

県高等学校総合文化祭の「美術・工芸、書道、写真展」および「特別支援学校作品展」が十月一日から五日までの五日間、四部門で若い感性と躍動感あふれる八百三十二点の作品が県立美術館で展示されました。

美術・工芸部門では、抽象画や具象画のほか立体的な造形作品など三十二校から二百四十九点の個性豊かな作品が展示。

書道部門では、行書や草書など二十七校から二百三十六点の力作を展示。

写真部門では、白黒のスナップをはじめ題材豊かな写真を十五校から八十点の作品を展示。

特別支援学校作品展では、南越前高等学校高等部の校歌の歌詞を一字づつ配置しアートに仕上げた作品など十一



高校生の力作を展示

校から三百六十七点が展示され、鑑賞に訪れた高校生をはじめお客さんは、若々しく感性が満ちあふれる作品に見入っていました。

定時制通信制連合文化祭

高等学校総合文化祭の一環として高等学校定時制通信制連合文化祭が十月十二日、福井市の道

守高校で開催されました。県内の八校の生徒が美術、書道などを展示した連合文化展や生活体験発表会、ワープ口競技大会などを行い、日頃の活動成果を披露しました。

連合文化展の書道部門は、八校から四十一点を、美術・工芸、写真部門は九校から七十一点を、被服、手芸部門

第19回 福井県高等学校総合文化祭

◆主催 福井県高等学校文化連盟

- 第62回福井県高校演劇祭 … 9月19日(金)～22日(月)
- 第10回福井県高等学校かるた大会 … 9月27日(土)
- 美術・工芸、書道、写真展 … 10月1日(水)～5日(日)
- 特別支援学校作品展 … 10月12日(日)
- 福井県高等学校定時制・通信制連合文化祭 … 10月12日(日)
- 第17回全国高等学校文化連盟 … 10月25日(土)
- 将棋新人大会県大会 … 11月8日(土)
- 第10回福井県高文連新聞大会 … 11月8日(土)
- 「高校生文芸道場」福井県大会 … 11月8日(土)
- 第46回音楽フェスティバル … 11月8日(土)
- 器楽・管弦楽部門 … 11月9日(日)
- 合唱・音楽部門 … 11月9日(日)
- 日本音楽部門 … 11月12日(水)
- 吹奏楽・マーチング・パントワリング部門 … 11月14日(金)
- 郷土芸能・吟詠劇詩舞部門 … 11月15日(土)
- 第28回福井県秋季西暦大会 … 11月9日(日)
- 放送部門 … 11月14日(金)～15日(土)
- (第33回全国高等学校総合文化祭参加選考会)
- 弁論部門(第33回全国高等学校総合文化祭予選会) … 2月18日(水)



伸びのびと学校生活の体験を発表する高校生

は、九校から六十七点の力作が出品されました。

生活体験発表会では、八校からの代表者が七分以内で発表し、その内容や話し方で審査し優秀賞一名、優良賞二名を決めました。

ワープ口競技大会は、八校が参加し、個人、団別に文章入力力の速さと正確さを競いました。

戦国大名

朝倉氏の歴史と文化(二)

文：青木豐昭

朝倉氏の文化

三 朝倉氏の文化

(1) 朝倉氏の著実な発展と高い文化

前回、「朝倉氏の歴史」で記したように、朝倉氏は代を重ねるにつれて着実な発展をしてきたことが明らかにされた。このことは視座を変えて歴代当主夫人の実家の家柄をみても説明できる。

すなわち、初代孝景夫人は一族の鳳羽豊後守将景の女であり、二代氏景夫人は尾張の織田孫左衛門の女である。三代貞景夫人は美濃の守護代斎藤利国の女である。初代から二代までの当主夫人の家柄は戦国大名朝倉氏から見れば格下である。三代目では同格の家柄から迎えることができた。四代孝景夫人は若狭の守護大名武田氏一族の女である。小国の大名ながら源氏の一

で由緒正しく、將軍の奉公衆として勤
仕し、室町幕府で重きをなした。この
代で初めて見た目、朝倉氏とほぼ同格
（實際は上）の家柄から当主夫人を迎
えることができた。五代義景夫人は、
幕府三管領の一人、細川右京兆晴元の
女であり、没後迎えたのが関白・大政
大臣に任ぜられた近衛植家の女（後に
離縁）である。植家の妹は將軍足利義
晴に嫁いで義輝を生み、義輝もまた植
家の女を娶っている。それで義景は將
軍義輝と義兄弟の關係にあつた。五代
義景に至つて朝倉氏ははるかに格上の
家柄より夫人を迎えたことになる。

このように朝倉氏当主夫人の実家
の家柄は代を重ねるにつれて上がつて
いったことが理解できる。これは取り
も直さず朝倉氏の家格の上昇に伴うも
のであつた。

また、代を重ねるにつれて一栗谷の
文化が充実し発展していったことは、

一乗谷文化の特色の一つである須谷石（福井市足羽山麓）の利用増大の一例からもつかがえる。

笏谷石は凝灰岩で軟らかく加工しやすく火にも強いことから、土木建築関

係では棟石・鬼石・溝石・溝蓋石・暗渠・井戸枠・洗い場の踏石・建物の束石・縁のササラ桁・囲炉裏・竈など、生活関係では火鉢・行火・風炉・水槽・石盛・石鉢・捏鉢・石臼など、宗教関係では石仏・石塔・鳥居・石灯笼・狛犬・石籠・

この中で特に紀年銘のある石仏・石塔について朝倉氏五代の当主ごと・年代ごとに一乗谷で調査した結果、次のことが明らかになった。(表参照)

前半代は石仏・石塔の数が最も少なく、三代貞景後半代、四代孝景前半代にかけては少し増加し、四代孝景後半代から五代義景代にかけては最

も数多く、笏谷石の石仏、石塔の利用が代を重ねるにつれて隆盛していったことがみてとれる。

なお、石仏・石塔類は文字面や彫刻面に金箔を張って装飾したものも多

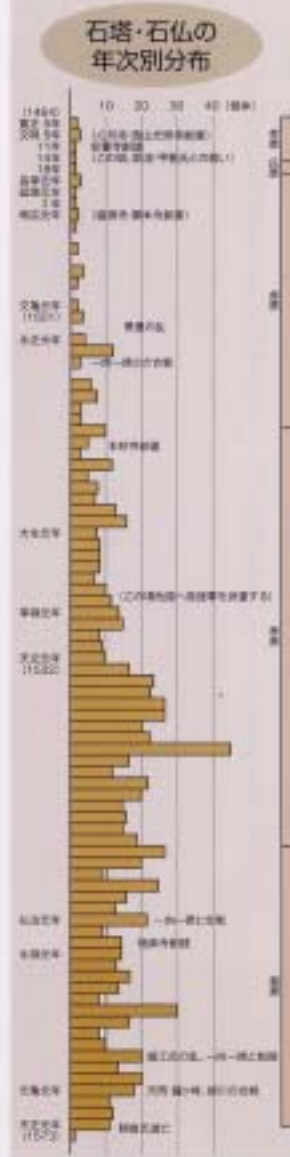
くみられ、当初はかなりきらびやかであつたことがわかる。



笈谷石製石仏と花瓶
一重谷朝倉氏遺跡出土。同資料館所蔵

笏谷石製品は当時、県内はもとより
弓庄城（富山県）、小谷城・安土城・
西教寺（いづれも滋賀県）、大垣城（岐
阜県）、石山本願寺（大阪府）などでも
利用されている。今後、調査が進め
ば県外での出土例はもっと増えると考え
られる。小谷城下では、一乗谷と同
じく笏谷石の五輪塔に金箔を張り付け
たものが発見されている。

織田信長は安土城の瓦に金箔を張り
付けたが、これは一乗谷の金箔を張り
付けた石仏、石塔類を見て驚き、これ
を真似たものであろう。柴田勝家の居



笏谷石製石仏と花瓶
一栗谷朝倉氏遺跡出土、同資料館所蔵



青木 豊昭 氏
Toyooki Aoki

1944年、福井県生まれ。福井大学教育学部卒業。福井県立博物館学芸課長、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター次長、同所長。福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館館長を経て現在、同館特別顧問。著書『越前若狹地域歴史の図に挑む』（2006.8.1刊）。共書『日本城郭大系11』『應体天皇の図に挑む』『福井県史通史編一原始・古代』『鯖江市史通史編上』『前方後円墳集成中部編』『應体大王と越の国』『福井県不思議事典』他。

城北之庄城（福井市）の笏台石の瓦にも金箔が使用されている。一乗谷笏台石文化の形をわけての波及である。

北之庄城下は「九重に上げた天守を中心」に広がり、その面積は安土の城下町の二倍であった」とポルトガル人宣教師ルイス・フロイスの書簡文は伝えている。また、フロイスはその著「日本史」の中で、越前を「日本における最も高貴で主要な国の一つであり、五畿内よりも洗練された言葉が完全な形で保たれていた」とも記している。当時の越前国の地位の高さがうかがえる。

(2) 朝倉氏や一乗谷文化の興隆の理由

朝倉氏や一乗谷文化の興隆の理由は次のことが考えられる。

①戦国大名となった初代孝景が家訓「朝倉孝景条々」（「朝倉英林壁書」ともいう）を子孫に残し、国づくりの方針が立てられたこと

朝倉氏の当主は ②能力・忠節主義
③情報の収集 ④実用的合理主義
⑤信賞必罰主義 ⑥機密保持 ⑦質素簡約と正服の採用 ⑧人材の育成



朝倉英林壁書（明治大学図書館所蔵）

と確保 ⑨呪いや占いの禁止 ⑩国内巡視と民衆の吸収 ⑪重臣の一乗谷城下集住策 ⑫私情を排し、道理の尊重 などを重視し領国を繁栄に

導いた。特に「人材の育成と確保」では、「僧侶・俗人にかかわらず、芸能の特技のある者は他国へ移ってはならない」とある。ここでいう芸能とは歌や舞だけでなく、猿楽・茶の湯・生花・絵画・文学・医学・武術といった様々な分野についてのことである。

②国内での謀反や戦が極めて少なかったこと

謀反は文龜三年（一五〇三）の敦賀郡司朝倉景隆と永禄十年（一五六七）の坂井郡の有力国人堀江景忠の事件が特筆されるが事無きをえた。戦は永正三年（一五〇六）の加賀の一揆大軍の九頭竜川河北乱入を撃破し勝利して以後国内は平穏となった。これも孝景・氏景・貞景の代は朝倉光政が宿老的立場で、貞景・孝景・義景の代は朝倉宗満が軍奉行として支えたことが国内の安定に大きな役割を果たした。

③歴代当主の先進性と京文化への憧憬
下克上の乱世、越前を制して日本最初の戦国大名となった朝倉孝景は晩年、子孫のために国内でも選早く家訓「朝倉孝景条々」を残し、国づくりの方針を示した。そして、子の氏景とともに戦国城下町一乗谷の建設を進め武家の城下集住策を進めた。三代貞景は一乗谷の城下町を京の町に引けを取らないようにするため、国内トップの絵師土佐光信に日本最初の「京中（洛中）図」屏風一雙を永正三年（一五〇六）に描かせ館に置いて町づくりに助んだ。四代孝景は明に渡って医学をきわめた谷野一栢を越前に招



戦国城下町一乗谷のようす（町屋と武家屋敷）

請した。一栢は一乗の高尾で明の熊宗立が解釈した「八十一難経」という医書三冊を天文五年（一五三六）、孝景の支援を受け刊行した。日本で二番目の医書刊行であった。五代義景は永禄四年（一五六二）、粟田大窪浜で犬迫物・永禄五年阿波賀河原で曲水の宴を催し、古い伝統文化の復興を図った。一方、永禄九年（一五六六）、義景は九州薩摩の島津氏を紹介して琉球渡



朝倉義景が琉球貿易をおこなおうとしていたことを示す唯一の資料
＜島津家文書（国宝）、東京大学史料館所蔵＞

て琉球渡

海勘合貿易を企てた。しかし、これは島津氏の承認をえたものの、その後世情が急変し実行はされなかった。

④都に近い一乗谷へ、京の数多くの文化人の下向

都に近い一乗谷への京の文化人（公家・僧侶・文人・芸人）の下向は朝倉氏治世一〇三年間に一〇〇名を超えたとされる。彼らを庇護し交流を深めたことによって京の文化を地元根づかせた。

⑤越前は諸物の生産力が高く、豊かな国であったこと

当時、五〇万石ほどの石高の国は越前・近江・美濃・尾張・常陸の五ヶ国であった。古来、越前は大国で豊かな国であった。

⑥日本海を通して、大陸の先進の文物が入手できたこと



タイ製黒漆靴四耳壺
（一乗谷朝倉氏遺跡出土、同資料館所蔵）

「天文廿年（一五五二）、唐船が三國津に入った。唐人その数廿八人」（「朝倉始末記」とあり、三國津は朝倉の津には古来渡来船があった。当時、敦賀や一乗谷阿波賀には唐人の在所があり、足羽三ヶ庄（木田庄・社庄・北庄）の他、一乗・三國・端郷（東郷）には唐人の座があったと記録にある。

橋本左内

(中)

いち早く近代的な統一国家像を展望

文／三上一夫

筆者プロフィール



三上 一夫氏
Kazuo Mikami

1921年朝鮮京城府生まれ。京城帝国大学史学科卒業。福井県立大野高等学校長・福井県教育研究所長などを経て。現在福井工業大学名誉教授。1989年に福井県文化賞、2004年に福井新聞文化賞を受賞。主要著書に『公武合体論の研究—越前藩幕末維新史分析』、『橋本小楠の新政治社会像』、最近では『幕末維新と松平春嶽』など多数。

斬新な貿易振興論

橋本左内の富国策にかかわる「安政三・四年頃の外国貿易説」のなかで、生産振興は「治国富民の要務」で、製品をほどよく売りさばくことが肝要だとみる。そして諸物産を外国貿易のルートに乗せることで、国家として「大なる御利益」があがると考え、生産増強に裏打ちされた輸出振興策を強調するのである。

また彼の「安政四年五月頃の制産に関する建議手書」では、福井藩領内での諸物産が年々増加する情勢下で、海外諸国を相手とする貿易に取り組むのが「永久莫大の御利益」があがると判断する。しかも相手が五大州の場合は、その購買力は格別で、かれらの好みに合致すれば、極めて好調な輸出が期待できる。したがって、どれほど大量に生産しても消費することは絶対にないと説くのである。

経済倫理の尊重

左内は、貿易活動とのかかわりで、

経済倫理の重要性を指摘する。外国商人は「商法」のうえで、いちずに「信義」にもとづき「礼律」を守るため、とかく日本商人の相手をあなどりあざむくようなやり方では、「永久親善の引合」



橋本左内銅像（福井市左内公園内）

つまり永年にわたる親しくむつまじい商取引はできないと戒めるのである。

なにぶん倫理性の欠落しがちな今日のわが国経済生産活動に対しても、厳しい警鐘とみてとることができよう。

さらに左内は、領民にとって必要な

のは、「日用当り前の品柄」つまり「生活必需品」だと述べるが、その点、近代経済学、自由主義経済の典拠となるイギリスのアダム・スミスの「国富論」が説く「人間の日常生活にとって

の必需品と便益品とが国民の富である」との経済論ともいみじくも軌を一にするのが注目

をひく。要は左内として、福井藩の安政期藩政改革に対する極めて斬新な改革指針を

近代的統一国家論

打ち出したものといえる。

実は、安政四年（一八五七）十一月二十八日、左内が福井の盟友村田氏

寿に、幕政の大改造を訴える手紙を送ったが、そのなかで、雄藩連合の全国的統一国家のビジョンを明確に打ち出している。つまりすぐれた将軍のもとに、従来の親藩・譜代・外様といった大名の差別をなくして、有能な人物であればどしどし登用せよというのである。そして幕閣の具体的な青写真まで示すが、そのなかで外様の「藩公」（鹿津齊彬）が親藩の「水老公」（徳川齊昭）や「我公」（春嶽）とともに「国内事務宰相」に起用されるほどである。そして宰相のもとに全国的に有能な藩士や浪士まで任用するわけで、むしろこのような階層に改革政治の事実上の推進力を期待した。また先進的な外国人技術者を招いて国家の産業開発をすすめる、さらに蝦夷地（北海道）の開発には「乞食・雲介」の類まで動員するなど、民力のすべてを結集した全国的な富国強兵策をめざしている。

こうして左内が頭に描いたのは、「日本国中を一家と見る」というわが国を打って一丸とする近代的統一国家に大改造すること、しかもこれが堂々と藩論をリードするだけの卓見でもあったのである。

当時の国内政治情勢

そこで、左内がこのような手紙をかいた当時の国内政治情勢はどうであったか。実は、中央政局で大きな波紋をよんだのが「將軍継嗣問題」つまり將軍の後継ぎをだれにするかということであった。ときの十三代將軍家定は病弱で子供がなく、政治的才能に欠けていた。当時の困難な対外問題を処理するためにも、早く將軍の後継ぎを決める必要があった。その有力候補に、水戸藩の徳川齊昭の子で一橋家に養子に入った一橋慶喜を推す一橋派と、將軍家定と従兄弟の間柄にある紀州（和歌山）藩主徳川慶福を支持する南紀派とが鋭く対立した。

一橋派のリーダーシップをとったのが福井藩主松平春嶽はじめ尾張（藩主・徳川慶勝）・薩摩（藩主・島津重豪）・土佐（藩主・山内豊信）・宇和島（藩主・伊達宗城）などの雄藩諸侯で、かれらはこそつて幼少の慶福に比べ賢明のほまれが高く立派に成人している慶喜

の方が、緊迫した内外情勢のもとで將軍の大任に堪える人物だと考えた。そしてこれら雄藩の連合勢力による思い



松平春嶽肖像（福井市立郷土歴史博物館所蔵）

切った幕政改革をめざしたのである。その具体的な書写真ともいえるものがまさにさきほどの左内の手紙のなかに見事に描き出されているとみてよい。いっぽう南紀派は、藩閥話の彦根藩主井伊直弼を中心とする譜代大名が主力で、將軍は人物よりも血統を重んじ、あくまで旧来の幕閣専制のやり方を続けようとした。こうして激しい改革にまで発展したのである。

左内の日露同盟論

なおこの際、前述の左内の村田氏寿あての手紙のなかで、国内の統一国家論の具体的構想とともに、当時の複雑で厳しい国際関係のなかでの外交策について、明快な情勢分析を行っている。その概要を述べてみたい。

只今の国際情勢をみると、将来五大州は一つ同盟国となり、盟主を立てて戦争をやめることになるだろう。そ

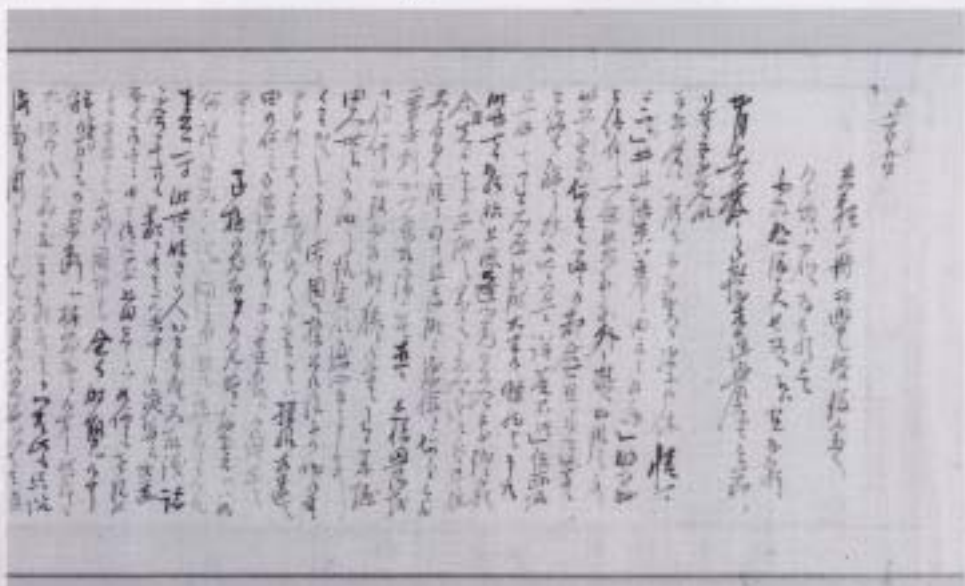
の盟主はイギリスかロシアのどちらかだ。ところで英国が「憐憫貪欲」つまり荒々しく欲が強いのに対して、露国

は「沈黙厳正」つまり落着いた猛鳥のような威厳があり、いずれ後にはロシアへ信望が集まるだろう。そこで只今の日本は、とても独立が難しい。独立するには、山丹（沿海州）・満州・朝鮮を併合し、さらに中国・インド内に領地を持たねばならない。しかし当今でははなはだ困難だ。なぜならインドは英国に占領され、山丹あたりは露国が手をつけているので、むしろ今のうちに強国に同盟した方が得策と思う。なにぶん英国からは、露国を伐つ先手をわが国に頼むが、また蝦夷・箱館を借り受けたいと願っている。その際、英を断然断るか、またはこれに従うか、いずれかの「定策」がなければならぬ。

そこで私はぜひ露に従いたい。その理由は、露は「隣境」で、我が国とは「唇齒の国」である。英は怒って我が国を伐つだろうが、露の支援があれば、たとえ敗れても「皆滅」になることはない。この一戦が、わが国としてかえって「危が安に」変じ、「真の強国」になるだろう。

左内が、アジアへの侵略をめざすヨーロッパ列強を逆手に利用して、同盟または和親関係により日本の対外的危機の克服をねらったのは、まことに巧

みな外交策といわねばならない。さらに左内は、ヨーロッパ列強に対する防衛線を、日本全土だけでなく、朝鮮・満州・中国・インドなどアジア全域に拡大することを主張する。その



盟友村田氏寿あて左内書状 安政4年11月28日（福井市立郷土歴史博物館所蔵）

福井県指定無形民俗文化財

「赤崎獅子舞」

敦賀市

八幡神社例大祭

残暑厳しい九月十三日（土）、十四日（日）の両日、敦賀市赤崎に伝わる福井県指定無形民俗文化財の「赤崎獅子舞」が同地区の八幡神社の秋季例大祭に赤崎獅子舞奉賛会の会員らによって奉納され、境内に集った区民の方々をはじめ多くの観客は伝統芸能の醍醐味を十分楽しんでいた。

本祭り

例大祭二日目の九月十四日に、午前七時から午後二時まで奉賛会の皆さんは、神楽を引き区内を一戸づつ訪れ、「鈴の舞」を舞って「荒神祓い」を行います。玄關で「コーシンバライ」と大きな声で呼ぶと、家の人が祝儀を差し出します。



鈴の舞

全戸を廻つた後、八幡神社へ行き「鈴の舞」を舞います。午後三時頃、八幡神社の本社に、鯛、果物、野菜などをお供え、宮司による祝詞で式が始まります。式が終わった午後四時頃から約一時間半獅子舞が奉納されました。



獅子舞

前日の夜、午後八時頃奉賛会や区民の皆さんは、集落センターを出発し、区内を練り歩き八幡神社へ向かいます。これを「神楽の渡り」といい、笛、太鼓、銅鑼を鳴らしながら「渡りの音頭」を歌い、額灯籠を振り、神楽を先導します。八幡神社に到着すると、本社の前で「鈴の舞」を舞い獅子舞の奉納が始まります。

宵宮

獅子舞奉納

奉賛会の会員らが本社前で、五穀豊稔、悪魔退散を祈願します。神社境内に神楽を据え、その前に獅子舞が奉納されます。

太鼓が二つ並べられ神楽の後半側が舞い手の控の場所となり笛もここで演奏します。礼拝を終えた後、獅子舞は、笛と太鼓の囃子に合わせて軽快な身のこなしで約一時間半演技が途切れることなく、優雅な舞を披露しました。

獅子舞の演目

赤崎獅子舞は、「鈴の舞」、「弊の舞」、「獅子取り」、「蟹拾いの舞」、「寝の舞」、「高山の舞」、「合の手」の演目順に進めます。「鈴の舞」は、舞い手は右手に弊を



寝の舞

左手に神楽鈴を持って舞い、尾持ちは、おかめ面をつけて舞います。「弊の舞」は、舞い手は右手に弊を持ちテンポの遅い伊勢音頭と笛、太鼓に合わせて弊を振りながら舞います。「獅子取り」は、演技場を廻りながら徐々に頭を下げ、胴幕の中で舞手が交代するもので、各演目の間に舞います。「蟹拾いの舞」は、笛だけの囃子に合せ、次第に頭を低くし地をはうようになり、笛の音が高くなると上を向いて口をあけて囃む動作をします。これは、獅子が好物の蟹をさがして拾い食べるしぐさです。「寝の舞」では、太鼓がやんで笛の音で次第に獅子の姿勢が低くなり寝ます。そこへ二匹の猿、天狗、袋面の道化役が眠りの邪魔をします。怒った獅子は、これらを追い払います。「高山の舞」は、手で獅子頭を支えながら肩車になり舞います。獅子が高い山から谷底の景色を眺めている様子を表しています。



高山の舞

「合の手」は、獅子取と同じ動きをしてから笛の音が高くなったら、獅子頭を振りながら中央の低い位置から右前方に進み、左右に扇状往復して終わります。

「赤崎獅子舞の由来」

獅子舞に関する古い記録は残されてなく、起源は定かでないが、かつて使われていた神楽（獅子を納めて建礼子宮の長持ち）に、文久元年（一八六一）と記されており、伊勢神宮の信仰が広まった江戸時代の中頃から行われてきたと推定されています。

現在、赤崎獅子舞は、赤崎地区の成年男子による「赤崎獅子舞奉賛会」の皆さんによって毎年奉納が続けられています。



紅葉賀図 一幅
狩野探信筆

本図は「源氏物語」第七帖「紅葉賀」を出典としており、清涼殿の帝の御前で光源氏と頭の中將が青海波を舞う姿が描かれています。

物語によれば、桐葉帝の行幸は十月半ばでしたが、それに先立って行幸の催しを藤壺女御に披露するため、清涼殿にて試楽（リハーサル）が催されました。この時、藤壺は光源氏の子を懐妊しており、複雑な心境でしたが、源氏の舞の美しさに夢のような気持ちになり、また帝をはじめ一同も感涙にむせんだとあります。

画面に目を移すと、中央には清涼殿の前庭で艶やかな衣装に身を包んで舞う光源氏と頭の中將の姿、その左方には大鉦鼓を叩むようにして笛、笙、横笛を奏でる楽人が配され、個々の相貌に変化をつけながらも丁寧に描写されています。また、背景となる楓の葉は一枚一枚塗り分けてられており、細筆を用いて朱で葉脈を表すなど、単調を避けるための配慮がみられます。また土坡をはじめ画面の諸処には金泥が刷りかれています。微妙な輝きを放つ金泥は

極彩色の画面を一層華やかで重厚な趣に仕上げており、さしずめ絵巻を拡大したような印象を受けます。清涼殿の御簾からは十二単の装束がみえることから、帝の左右に引微殿女御と藤壺女御が対峙していることをうかがえますが、この装束の緻密な模様や御簾に描かれた無数の筆線などには感嘆するばかりです。

本図は掛軸から額装に仕立て直されていますが、今でも当時の鮮やかな発色を保ちながら鑑賞者を古典の世界へと誘ってくれています。

筆者の狩野探信は、名は守道、興齊と号し、江戸・駿河台狩野家の探牧の長男として七代目を継ぎました。法眼に叙せられ、とくに大和絵を良くしたとされています。天保六年九月五日没、五十一歳没。

□ 絹本着色

□ 縦69.5cm 横122.8cm

□ 江戸後期

□ 落款 宮内卿法眼探信齋

□ 印章 「興齊」 朱文長方印

「守道」 朱文方印

福井の文学碑

俳人・小説家 高浜虚子

教育の句碑

白砂青松、名勝「気比の松原」の松原公園入口附近に俳人高浜虚子の句碑が建てられています。

句碑には、
松原の続くかぎりの秋の晴
と刻まれています。

昭和三十一年十月四日、高浜虚子は、俳人で次女の星野立子とともに敦賀を訪れて

います。
虚子は、
松尾芭
蕉にな
らって
気比神
宮に詣
でた後、
金前寺、
武田耕
雲齋等



「気比の松原」の句碑(敦賀市)

の墓、気比の松原を周遊して、翌五日は、常宮神社に参詣し、船で色ヶ浜を訪れ、「奥の細道」の昔を偲びました。虚子は、このほか

我やとし数賀言葉は京に似て
芭蕉忌の燭の芯穿る坊が妻
秋風にもし色あらば色の浜
と詠まれました。

三国へ五回訪問



敦賀を訪れた高浜虚子

三国町出身の俳人森田愛子が昭和十六年に伊藤拍翠に連れられて、鎌倉の「虚子庵」を訪ねて師弟の交流が始まり、以後高浜虚子は、三国町へ五回訪れています。

○昭和十八年十一月十五日(第一回目)
次女の星野立子を伴い、森田本家を訪問しました。

川下の娘の家を訪ふ春の水
翌十六日は、永年寺を参拝して、
今も尚承陽殿の紅葉見る
遅席を登るにつれて時雨冷え
木々紅葉せばやまざる御法かな
と詠んでいます。

○昭和二十年十一月五日(第二回目)
高浜年尾と星野立子とともに翌六日、雪国で句会を開き

船人は時雨見上げてやりすごし
朽船をめぐりて菜屑去り難な
瀧谷寺では
迎へ余三国時雨に逢ひにけり

と詠まれました。

○昭和二十一年十月十二日(第三回目)
高浜年尾を同行し病床の森田愛子を見舞いました。

百丈の断崖を見ず野菊見る
野菊数束春坊に咲きなだれ
病む人に各々野菊折り持ちて
明日よりは病忘れ菊枕

○昭和二十七年九月二十九日(第四回目)
森田愛子七周忌の法事と東尋坊の句碑除幕式に出席しました。

○昭和二十八年十月八日(第五回目)
伊藤拍翠の結婚披露宴に出席のため訪問。

人の世の虹物語りうすれつ、



荒磯遊歩道の句碑(坂井市三国町)

小説「虹」と「愛居」

虚子は、昭和二十二年一月に森田愛子をヒロインにした小説「虹」を「苦楽」(新年号)に、「愛居」を「小説と読物」(新年号)にそれぞれ発表しました。その後しばらくした昭和二十二年四月一日に森田愛子は二十九歳で死去しました。

死の直前に、
虹消えてすでに無けれどある如し

(愛子)

と詠み虚子に送り、これを受けた虚子は、

虹の橋渡り遊ぶも意のままに(虚子)
を電報で発信したが愛子は即ち帰らぬ人となっていた。

虚子から愛子への半問の句稿が託され、棺の愛子の手握られた。

三国の句碑

坂井市三国町の東尋坊に近い荒磯遊歩道沿いに、高浜虚子、伊藤拍翠、森田愛子の句碑が並んで建てられています。

日本海秋潮となる頃淋し(拍翠)
野菊むら東尋坊に咲きなだれ(虚子)
雪国の深き庇や寝待月(愛子)
また、瀧谷寺の清涼とした参道の脇

に、
落葉路み又新る日のありやなし

(拍翠)

迎へ余三国時雨に逢ひにけり(虚子)
啄木鳥や山門までの杉櫓(愛子)
と刻んだ句碑が建てられています。



「瀧谷寺」の句碑(坂井市三国町)

虚子は、昭和二十九年に文化勲章を受賞。

その生涯に約二十万句を残し、また多くの作家を輩出して昭和三十四年四月八日に、「虚子庵」にて八十六歳で永眠し、鎌倉の寿福寺に眠っています。

げんでんふれあいスペシャル2008 米村でんじろう サイエンスショー

子供達に「科学」を楽しんでいただくこと、サイエンスプロデューサーとして科学実験等の企画・開発や出演で活躍中の米村でんじろうさんを招き、「げんでんふれあいスペシャル2008」サイエンスショー（当財団主催・日本原電協賛）を八月二十一日（木）の夜、福井市文化会館で開催しました。

身近にある材料や道具を使っての巨大空気砲やヘリウムガスで音

声に変化するなど不思議な科学実験を行いました。米村さんの笑いを誘うおもしろい解説で会場に集まった約千二百人（満席）の親子連れの方々は、夢中になり楽しんでいました。

実験の主なもの
○ハイパーブーメラン

会場に向かってブーメランを投げる



ハイパーブーメランを飛ばす「でんじろうさん」

と、お客さんの頭のていねいに描いた見事に手元に戻すことができました。このブーメラン

は、厚紙を使って簡単に作ることができ、作り方を楽しく説明していました。

○巨大空気砲実験

段ボール箱に丸い穴を開け、空気をテープで留めて、空気砲ができた状態です。ボンと箱をたたくと空気の大砲だけあって相当な威力を発揮します。直径一メートルの段ボールの箱の中に煙を入



大きな煙のドーナツが会場を遊泳

れた箱をたたくと、中の煙がドーナツ状の輪となって飛び出し、遊泳して、約五十メートル離れた客席の最後尾までその輪が届きます。

○風船まきまき実験

直径一・二メートルの大きな風船を膨らませると900g（約一・二kg）の空気が入りますが量りに乗せると250gを指します。この巨大風船を会場いっぱいに出します。



空気の重さの不思議

第12回 福祉演芸会巡回 開催

マジック
ゼンジー・一徳さん

歌謡曲
林田麻友子さん



コメディマジックの一徳さん

各会場には、車椅子の入所者やサービス等で訪れた方々が開演の三十分前から待つなど、三日間で六施設の会場に約六〇〇人が集い笑顔いっぱい楽しいひとときを過ごしました。



歌う林田さんと一徳さん

当財団では、人に優しいふれあいの活動として十月七日から九日までの三日間、県内の福

ゼンジー・一徳さんは、六つのリングやロープなどを使い巧みな話術で笑いを誘いながらマジックを披露して喝采を浴びました。

後半は、林田さんが登場し、「潮来笠」、「ソーラン渡り鳥」など懐かしい歌謡曲や「花」、「茶づみ」、「もみじ」、「焚火」など四季の叙情歌を熱唱。客席の中に入って、「リンゴの歌」や「青い山脈」などをお客さんと握手しながら歌い、お客さんは、手拍子を打って一緒に合唱していました。

ファイナールは、一徳さん作詞のオリジナルの楽しい曲で「浪花の街に花が咲く」を林田さんが歌い、最も高潮に達してしました。



お客さんと一緒に歌う林田さん

10/9 (木)	10/8 (水)	10/7 (火)	第12回 巡回
愛全園	長生苑	九頭竜	山梨苑
14時	10時	14時20分	10時
福井市	福井市	福井市	大野市
			若狭町
			敦賀市

「二台のピアノ」コンサート

若手ピアニスト 大谷研人さん・竹内真紀さん

当財団の有望新人芸術家育成のための特別奨励制度対象者でピアニストの大谷研人さんと福井市出身のピアニストの竹内真紀さんによる「二台のピアノ」コンサートが七月十八日、県立音楽堂で開催されました。二人の連弾、「ハンガリー舞曲」で開幕。第一部は、大谷さんが留学先のハンガリーにちなんだ曲「ハンガリー狂詩曲」を、第二部は、竹内さんがスペインをテーマにした。



「二台のピアノ」デュオに初挑戦する大谷さんと竹内さん

曲「アンダルシア幻想曲」他を演奏しました。演奏の間に、大谷さんはハンガリーでの体験などを、竹内さんは、スペインのアルバインやアンダルシアを訪れた時の情景を話しながら曲の解説を行いました。二人は、二台のピアノによるデュオに初挑戦し、息の合った演奏で、会場の約六百人の聴衆を魅了していました。

青島広志のおしゃべりクラシック

大阪シンフォニカ交響楽団

敦賀市文芸協会主催の「青島広志のおしゃべりクラシック」(当財団協賛)が七月五日、敦賀市民文化センターで開催されました。ピアニストで指揮者として活躍している青島広志さんが大阪シンフォニカ交響楽団を率いてのコンサートです。曲目は、ヘンデルの「水上の音楽」他、なじみの十二曲を演奏しました。ベートーベンの「運命」の作曲にまつわる話やスメタナ



拍手を受ける青島広志さんと大阪シンフォニカ交響楽団と地元のせせらぎグループ

また、地元の合唱団「せせらぎグループ」が「愛の夢・七夕さま」他三曲を歌い、フィナーレは、「ドレミの歌」を会場の観客とともに合唱し楽しいひとときを過ごしていました。

夜空に響くライブ熱狂

～新進気鋭のアーティスト熱演～

新進気鋭のミュージシャン七組による屋外ライブ「フットフェニックス」(FM福井主催、当財団協賛)が八月二十二日夜、福井市のエルパラス上特設ステージで開催されました。トップは、「FUNKY MONKEY BABYS」の三人がステージを駆け回り、「ちっぽけな勇気」ほかを歌い会場を盛り上げ、続いて「キマグレン」が「LIFE」他を、「JYONGRI」が「YONGRI」他を、福井市、中孝介の実



2800人と一体になって歌う「FUNKY MONKEY BABYS」

力派シンガーが次々と登場。十代の女性に人気急上昇中の加藤ミリヤが出演すると熱気は最高潮に達し、「HOME MADE家族」が「真夏のダンスコール」他を歌い約五時間、間をわたるステージを締めくくりました。二千八百人の若者は、迫力のある会場でビートの響きと照明をいっぱい浴びて楽しんでいました。

おもしろフェスタ in サンドーム 2008

～ふくいのものづくり大発見～

子どもたちに本県のものづくりの技術を紹介し科学の楽しさを感じてもらおうと「おもしろフェスタ in サンドーム 2008」が(財)福井県産業会館主催(当財団協賛)で八月九日と十日の二日間サンドーム福井で開催されました。会場は、誘、遊、愉、の三つのゾーンに分けて、福井工業大学や福井高専、高校、産業団体など六十団体が出展しました。実験などができる「愉ゾーン」の福井工業大学のブースでは、ガラス玉づくりや直径八十センチのシャボン玉の中に入ることができ、コーナーが人気を集めています。



おもしろフェスタの人気コーナー

した。このほか和紙や漆器など伝統工芸の体験や実験、ショーなどが多彩に行われていました。二日間家族連れなど一、二〇〇人が訪れ、子どもたちは、ものづくりの楽しさに触れ夢中になっていました。

敦賀こどもミュージカル 2008

～春の風とともに…花換え物語～

「敦賀こどもミュージカル」(同実行委員会主催、当財団協賛)が九月二十七日、敦賀市民文化センターで開催されました。このミュージカルは、二〇〇三年が初舞台で、今回は三回目となりました。

敦賀市出身のジャズダンサーの三代真史さんが構成と振り付けし、子どもたちを指導して開いたものです。

物語は、白血病の「愛ちゃん」と重いぜんそくの「心ちゃん」の二人の小学生が入院中に出会い、病気の不安などを語り合いながら、「金ヶ崎宮」で再会して桜の小枝を交換するクライマックスシーンとなります。



ステージいっぱいに踊り、歌う子どもたち

クスシーンとなります。華やかな演出で、子供達は、ステージいっぱいのにびのびと踊り、歌う演技で観客を魅了しました。

「SHOWTA・Live」

ふくいアートフェスタ 2008



天使の歌声の「SHOWTA」

日、福井市の鶴のホールで開催されました。

シルキーボイスが魅力の「MATHA&YUMI」が「BOY & GIRL」、「Escort」を歌い、続いてピアノ弾き語りシンガーの「HINATA KAKO」が「緑色の涙」、「たからもの」他を艶やかで力強く歌った後、「SHOWTA」が登場しました。「SHOWTA」は、現在、二十一才。女性と男性とでもとれる歌声で「ビジュアル系歌謡曲」と言われ、「私の春がはじまる」、「願い星」など十曲を歌いました。会場に集った二〇〇人の若者は、美しい天使の歌声に聴き入っていました。

第20回全国龍馬ファンの集い 福井大会

～「龍馬がゆく」 越前に行こう 春嶽に逢おう～

「龍馬がゆく」 越前に行こう 春嶽に逢おう」をテーマに第二十回全国龍馬ファンの集い福井大会(当財団協賛)が十月二十五日と二十六日に行われました。

二十五日は、福井市のアオサの福井県民ホールで開催式とシンポジウムが開催されました。

シンポジウムの第一部は、「春嶽候をめぐる人々」と題してパネリストの岡崎誠也高知市長、酒井哲夫元福井市長、坂本家九代目の坂本登さんらが、生誕百八十年を迎えた松平春



坂本龍馬の肖像

嶽らと龍馬の関係について、第二部は、「龍馬も食べた?越前のご馳走(ごっつお)」を題材に話し合いました。

会場に集った全国の龍馬会々員やファンら約四百人は、近代日本の夜明けのために東奔西走した龍馬が越前福井にきたことの重要性を再認識していました。

西田當百の句碑建立

「川柳」発展の功績をたたえて

小浜市出身で川柳の発展に努めた西田當百の句碑が小浜市中央公園内に建立されました(当財団協賛)。

碑には、「天下泰平 晩酌の量が増し」と彫ってあります。

當百が創立した「番傘川柳本社」創立百年を記念して、その功績をたたえ建てたもので九月二十七日に、地元の「若狭番傘川柳会」をはじめ「番傘川柳本社」、各地の川柳会の会員ら約



西田當百の句碑と除幕式

七十人が出席して除幕式が行われました。

翌二十八日は、川柳愛好家ら百七十人が出席して福井県川柳大会が小浜市働く婦人の家において開催されました。



財団 ふれあい 通信

平成21年度 財団の助成を受けたい団体を募集 申請期限4月20日(月)

財団では、文化団体等の事業活動を支援するため「財団助成事業取扱規程」に基づいて助成をしています。平成21年度において文化活動等の事業を行うため、財団の助成を受けたい団体を募集しています。

対象団体の要件

1. 福井県内に活動の本拠を置く団体
2. 構成員(会員)が原則として20名以上の団体
3. 平成21年4月現在で、原則として設立後2年を経過している団体
4. 営利を目的とせず、明確な会計経理を実施、報告できる団体
5. 特定の政治団体、宗教団体、企業に所属していない団体

応募の方法

- 財団所定の「助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を平成21年4月20日(月)まで(申請事業の実施が4・5・6月の場合は3月20日まで)に当財団に提出してください。
- 申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等がありますので、詳しいことは「げんでんふれあい福井財団」にお問合せ下さい。

読者アンケートご回答のまとめ

げんでんふれあい 福井 第30号

本誌第30号(平成20年3月発行)のアンケートに総数22通のご回答をいただきありがとうございました。その結果を下表のとおりまとめました。今後も、皆様のご意見をうけたまわり本誌の充実に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。



第30号で良かった記事

- おかげさまで財団設立10周年 げんでんふれあい福井財団の役割と活動(下) 8名
- 財団10年のあゆみ(Ⅱ) 9名
- 座談会 「福井の文化とふるさとづくり」を読む 4名
- 第9回げんでんふるさと文化賞 および芸術新人賞受賞者紹介 3名
- ふるさと福井人物シリーズ 「若狭の妙玄寺義門(下)」 11名
- 第10回ふるさと大賞 写真コンテスト入賞作品 5名
- ふくいの伝統行事シリーズ 「ばいもしよ」 6名
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー/24 神功皇后図 一幅 冷泉為恭筆 4名
- 福井の文学講座 「作家・俳人 多田裕計」 11名
- 情報ファイル 4名

本誌へのご意見・ご要望

- 表紙の「ばいもしよ」の子ども達がとてもかわいく、さらに読む気をUPさせてくれました。
- 福井の文学碑 すごく物知りになった気がします。
- ふるさとの昔からの伝統行事をクローズアップして本誌で紹介されるのは誠に興味があり、参考になります。
- 県内の文化面を支援されているのがよく解りました。
- 助成をした団体の紹介欄があると良いと思う。
- 少子化などで統合・廃校の学校、消えゆく校舎、新学校の校門、校歌、略歴をシリーズで記事にしてください。
- なかなか発行されているのに気がつかず、手にするのが遅くなってしまう。
- 10年にして30号ですが、掲載するテーマは無限といっても良い。自然、伝統料理、近代化遺産…など。
- 福井の文化を全国とりわけ関西にもっと発信してほしい。
- 狂言を楽しむ会は、是非毎年続けて頂きたい。

財団イベント INFORMATION

日英小学生絵画交流展	敦賀市内の5小学校とイギリス・セラフィールド地区の5小学校の児童絵画を展示	12/ 8(土)~12/14(日)	敦賀原子力館	(敦賀市明神町)
		12/16(火)~12/28(日)	げんでんふれあいギャラリー	(敦賀市本町)
第11回ふるさと大賞 写真コンテスト入賞作品展	ふるさと大賞および入賞作品を展示	平成21年 2/ 3(火)~ 2/15(日)	げんでんふれあいギャラリー	(敦賀市本町)
		平成21年 2/20(金)~ 2/25(水)	ショッピングセンター「ベル」	(福井市花堂)
文化講演会	講師 西川ヘレン(タレント)	平成21年 2/8(日)	小浜市文化会館	小浜市連合婦人会と財団共催
平成20年度 福井県新人演奏会	公開オーディション	平成21年 2/22(日)	県立音楽堂	福井県文化振興事業団主催、財団協賛
	新人演奏会	平成21年 3/22(日)		
げんでんふれあいスペシャル2008 「夢いも辛いも、いろはにほへど」	五大路子、大和田伸也 他	平成21年 3/14(土)	敦賀市民文化センター	財団主催 入場料2,000円